

第4章 ゴールとターゲットの到達状況

本章では、沖縄県におけるSDGsの17のゴールおよび優先課題の各ターゲットの到達状況について、客観的な指標データに基づき評価・分析を行います。

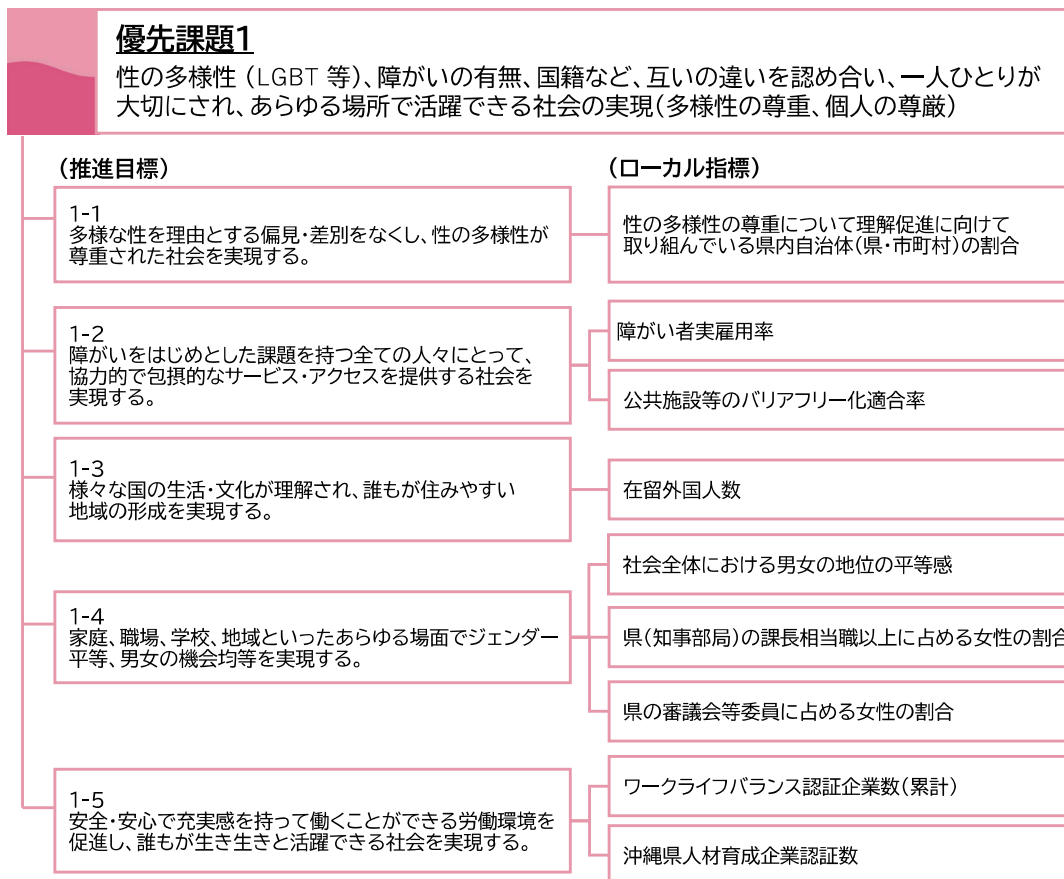
今回のVLRにおける評価にあたっては、SDGsの根幹をなす「2030アジェンダ」の理念に基づき、個別のゴールを相互に関連し合う5つの要素、すなわち「5つのP (People, Prosperity, Planet, Peace, Partnership)」の枠組みに整理して総括しています。

この5つのPによる評価を用いることで、単なる数値の増減の把握にとどまらず、沖縄の「人 (People)」の暮らし、「豊かさ (Prosperity)」、守るべき「地球・自然 (Planet)」、基盤となる「平和 (Peace)」、そしてそれらを支える「連携 (Partnership)」が、互いにどのように影響し合い、持続可能な社会に向けて進展しているかを多角的に明らかにすることを目指しています。

以下に、それぞれの要素に基づく本県の現状と進捗を記述します。

(1) 優先課題ごとの到達状況

「おきなわSDGsアクションプラン」では、多様なステークホルダーとともにSDGsの目標達成と地域課題の解決に向けて取り組むための「推進目標」と、具体的な取組の事例として「実現に向けたアクション」を12の優先課題ごとに設定しています。また、各目標のモニタリングを行うために「推進目標」に関連した代表的なローカル指標及び基準値、目標値を位置づけています。「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリングにあたっては、ローカル指標の基準値を踏まえた進捗状況や目標値に対する到達度を評価していますが、各推進目標の達成に向けては多様な取組や視点が必要であることに留意が必要です。優先課題、推進目標、ローカル指標の一覧は以下のとおりです。



優先課題2

医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし

(推進目標)

2-1 平均寿命及び健康寿命が延び、健康・長寿おきなわの復活を実現する。

2-2 全ての人々に対する普遍的な医療提供体制が充実し、安心して生活できる社会を実現する。

2-3 ひとり親家庭など、支援が必要な方が安心して生活できる環境の形成を実現する。

2-4 高齢者が安心して元気に暮らせる社会を実現する。

2-5 安心して子育てができる環境の形成を実現する。

2-6 生活困窮世帯の子どもや世帯を支援する官民の枠組みが充実し、子ども達が生き生きと活動できる環境の形成を実現する。

(ローカル指標)

健康寿命(男性)

健康寿命(女性)

人口10万人対医療施設従事医師数(県平均)

就職相談から就職に結びついたひとり親家庭の数

人口10万人当たりの認知症サポーター数

65歳以上就業率(年平均値)

この地域で子育てをしたいと思う親の割合

保育所等入所待機児童数(顕在・潜在)

沖縄こども調査による困窮世帯の割合

沖縄こどもの未来県民会議サポーター(個人)会員数

優先課題3

地域への誇り(しまくとぅばの普及・推進等)と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実

(推進目標)

3-1 生まれ育った地域の歴史や文化等を学び、地域への愛着と誇りを持った若者が活躍する社会を実現する。

3-2 時代に対応し、生きる力を育む、多様な学びの環境の形成を実現する。

3-3 充実した人生100年時代、再チャレンジを支える学びの環境を実現する。

(ローカル指標)

しまくとぅばを挨拶程度以上使う人の割合

学校公演鑑賞後に組踊・沖縄伝統芸能を理解した児童生徒の割合

将来の夢や目標を持ち、自らやると決めたことをやり遂げるようにしている児童生徒の割合(小学生)

将来の夢や目標を持ち、自らやると決めたことをやり遂げるようにしている児童生徒の割合(中学生)

教育訓練給付金の受給者数(10万人あたり)

県・市町村における生涯学習講座の受講者数

優先課題4

基幹産業として持続可能で責任ある観光(サステナブル/レスポンシブルツーリズム)の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興(農林水産業におけるブランド化等)、県経済の基盤となる安定的な雇用

(推進目標)

4-1 魅力的な観光産業の展開と生物多様性の両立により、持続可能な観光地(サステナブル・ツーリズム等)の形成を実現する。

4-2 県内企業の稼ぐ力を強化し、観光との連携・相乗効果なども活用することで、域内経済循環の拡大や県民所得の向上を実現する。

4-3 沖縄県産農林水産物のブランド化による県外消費と地産地消の促進により農業・林業・水産業の産出額等の拡大を実現する。

4-4 科学技術・イノベーションにより、健康・バイオ・医療関連分野等において、新たな産業等が創出され、持続可能な産業の振興を実現する。

4-5 働く意欲のある人に雇用の機会が確保され、沖縄社会全体で完全かつ生産的な雇用を実現する。

(ローカル指標)

持続可能な観光を推進するための取組が行われていると感じた観光客の割合

月間現金給与額(「きまって支給する給与」の全産業平均値)

農林漁業産出額(内訳農業産出額、林業産出額、漁業産出額)

スタートアップ企業創出数(累計)

就業率(年平均値)

優先課題5

日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点

(推進目標)

5-1 アジア・太平洋の国際物流拠点として確立され、公平で開かれた貿易環境を実現する。

5-2 情報通信産業が稼げる産業へと変革し、産業DXを支えるパートナーとして、沖縄の産業の持続的発展に寄与することを実現する。

(ローカル指標)

那覇空港の貨物取扱量

那覇港の外貨取扱貨物量

情報通信産業における従業者1人当たりの売上額

優先課題6

気候変動に適応する強靭なインフラと交通網の整備

(推進目標)

6-1 気候関連災害・自然災害に対する強靭さ(レジリエンス)を備えた地域づくり・まちづくりを実現する。

6-2 2050年度カーボンニュートラルの実現に向け、本県の地域特性に合ったクリーンエネルギーの導入拡大や省エネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収源対策等が進み、低炭素で災害に強い、沖縄らしい島しょ型エネルギー社会に向けた基盤形成を実現する。

6-3 環境と人に優しい地域づくり、交通網・まちづくりを実現する。

(ローカル指標)

防災拠点となる公共施設等の耐震化率

1人当たりの二酸化炭素排出量

再生可能エネルギー電源比率

公共交通利用者数

県公用車のEV・PHV導入台数

優先課題7

多様な生物・生態系や世界自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、
エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル

(推進目標)

7-1
美しく豊かな自然が保全され、生物多様性の維持を実現する。

7-2
持続可能な消費・開発、自然と調和したライフスタイルの形成、
廃棄物削減などによって資源循環型の社会を実現する。

(ローカル指標)

重点対策種等の排除・根絶地域数

監視海域における赤土等年間流出量

一般廃棄物のリサイクル率

産業廃棄物のリサイクル率

食品ロス量

優先課題8

基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として
世界平和への貢献・発信

(推進目標)

8-1
基地から派生する諸問題の解決が進んでいる。

8-2
平和を希求する「沖縄のこころ」が継承され、
国内外に広く発信され、世界平和への貢献を実現する。

(ローカル指標)

米軍基地関係事件・事故数(刑法犯含む)

航空機騒音環境基準達成率

平和祈念資料館による平和講話等の実施学校数

平和に関する社会貢献活動に取り組む個人や
団体の数(累計)

優先課題9

共助・共創型の安全・安心な社会の実現

(推進目標)

9-1
行政、家庭、企業、ボランティア等の地域社会を構成する各主体が
一体となって防災・防犯に取り組み、安全・安心に暮らせる地域を
実現する。

9-2
社会的弱者に対する犯罪等の防止や被害者等への支援のための
体制や環境の構築を実現する。

9-3
地域課題に行政・地域・企業等の多様な関係者が持ち味をいかし
つつ連携して推進するパートナーシップを通じて、共助・共創型の
社会を実現する。

(ローカル指標)

飲酒絡み交通人身事故の構成率

配偶者暴力相談件数

過去1年間の児童相談所における
児童虐待相談の対応件数

NPOと県との協働事業数

おきなわSDGsプラットフォームの
登録会員数

優先課題10

ユイマール(相互扶助)の継承、人の和・地域の和

(推進目標)

10-1
県民一人ひとりが地域活動に積極的に参画する
ローカルパートナーシップが充実した社会を実現する。

10-2
地域の伝統行事や文化に若い世代が参加する
機会が増え、次世代への継承を実現する。

(ローカル指標)

県内市町村社協へ登録しているボランティア団体総数

自主防災組織率

県の支援した伝統芸能関係団体が実施したイベント
(公演等)の参加者数

優先課題11

地域・世代・分野・文化等を越えた多様な交流と連携の創出

(推進目標)

11-1
離島等の魅力を活かした地域間の交流が活発に行われる
とともに、住民が安心して生活できる社会を実現する。

11-2
世界のウチナーンチュとの交流が活発に行われ、
次世代へ安定的に継承されていく環境の形成を実現する。

11-3
伝統文化・歴史・伝統行事を若い世代が継承し、世代や
国を超えた発信を行い、多様な交流が広がっている
社会を実現する。

11-4
多様な文化やスポーツ等の活動や交流、地域の資源を
活かした、地域活性化や産業振興、国際交流を実現する。

(ローカル指標)

離島地域人口社会増減数

過疎地域人口社会増減数

「世界のウチナーネットワーク」サイトの
アクセス数(累計)

県内文化施設の稼働状況

県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率

スポーツコンベンション開催における消費額

県が支援した文化交流イベントの参加者数

優先課題12

世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバル・パートナーシップ

(推進目標)

12-1
沖縄の技術や経験を世界各地に発信・共有することで
国際貢献を促進する。

12-2
世界各国との交流の推進を通じて、グローバル
パートナーシップを促進する。

(ローカル指標)

国際協力・貢献活動に関わった海外研修生受入団体数

国内外におけるウチナーネットワークの強化を推進する
取組数

各推進目標のローカル指標の現状値に対する分析は、53頁以降にとりまとめています。

○到達度で見る全体の状況

各ローカル指標について、前述の基準値に対する変化率だけではなく、目標値に対する到達度を算出することで、基準値からの進捗具合を別視点で評価しています。

なお、目標値は原則2024年度時点为目标年度として設定・評価しています。

また、各ローカル指標の到達度（対目標値）の算出に当たっては、以下の計算式を用いています。

$$\text{到達度（\%）} = (\text{現状値} - \text{基準値}) / (\text{目標値} - \text{基準値}) \times 100$$

上記計算式での到達度の算出が適切でない一部指標については、以下の計算式で算出しています。

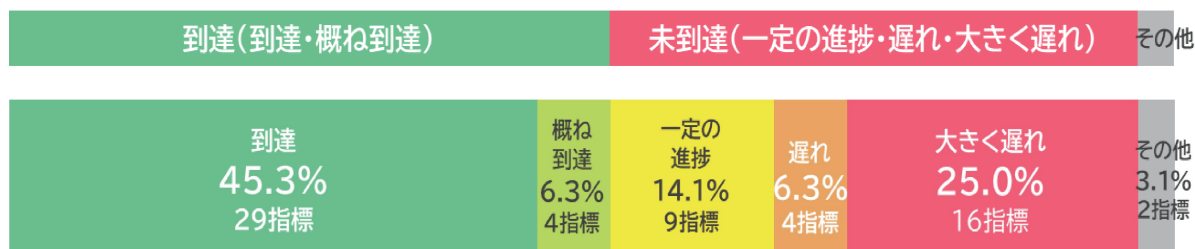
$$\text{到達度（\%）} = \text{現状値} / \text{目標値} \times 100$$

対目標値で見た場合の進捗状況としては、到達度の数値によって以下のような区分を設定し評価しました。ローカル指標全体の到達状況については、「到達」および「概ね到達」は「到達」に、「一定の進捗」「遅れ」「大きく遅れ」を「未到達」に分類しています。

なお、定量的な目標値ではなく定性的な目標（増加・減少どちらの方向が望ましいか）が設定されている指標は、対基準値で望ましい方向に推移している場合「到達」に、望ましい方向と逆方向に推移している場合「未到達」に分類しています。

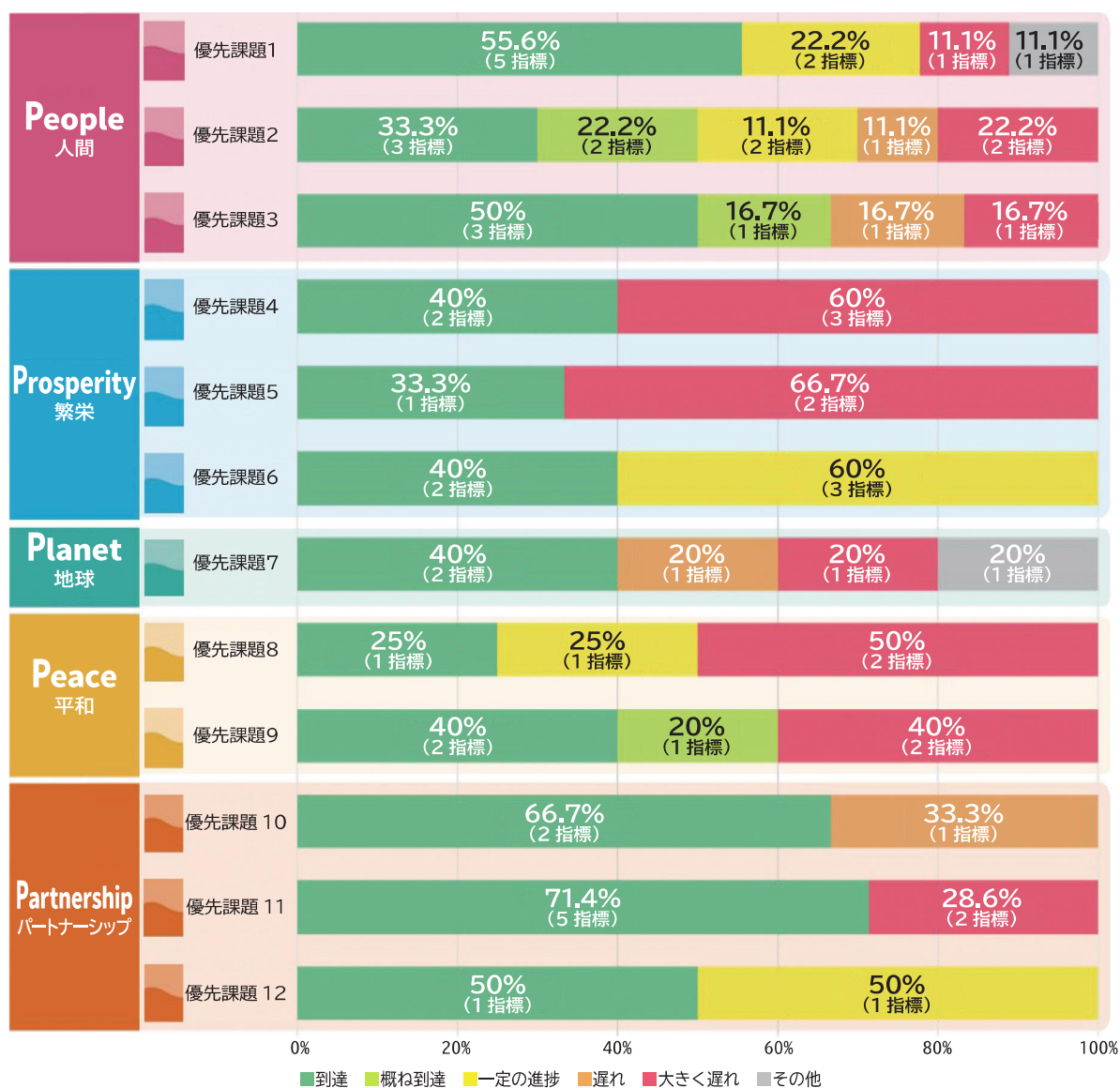
分類	評価	対目標値の評価基準
到達	到達	到達度が 100% 以上
	概ね到達	到達度が 80% 以上～ 100% 未満
未到達	一定の進捗	到達度が 50% 以上～ 80% 未満
	遅れ	到達度が 20% 以上～ 50% 未満
	大きく遅れ	到達度が 20% 未満 ※マイナス数値も含む
その他	その他	到達度計算不可

前述の評価方法に基づいた、ローカル指標全体の到達状況は以下のとおりです。



ローカル指標の64指標の内、各到達状況に該当する指標数および割合は、「到達」が29指標(45.3%)、「概ね到達」が4指標(6.3%)、「一定の進捗」が9指標(14.1%)、「遅れ」が4指標(6.3%)、「大きく遅れ」が16指標(25%)となりました。その他の指標は基準値と比較するデータが公表されていない等、評価ができない指標となっています。

また、各優先課題の目標値に対する到達度の進捗状況の結果は以下のとおりです。



※定性的な目標が設定されている指標のうち「未到達」は、「大きく遅れ」に含む。




優先課題 1・3・10・11・12においては、半数以上のローカル指標が目標を到達しており、取組推進の結果が表れていると考えられます。

一方、優先課題 4・5・8は進捗が大きく遅れている指標が多く、取り組むべき課題が多く残っています。

○変化率で見る全体の状況

各指標の進捗（対基準値）は、以下の矢印の表示により記載します。

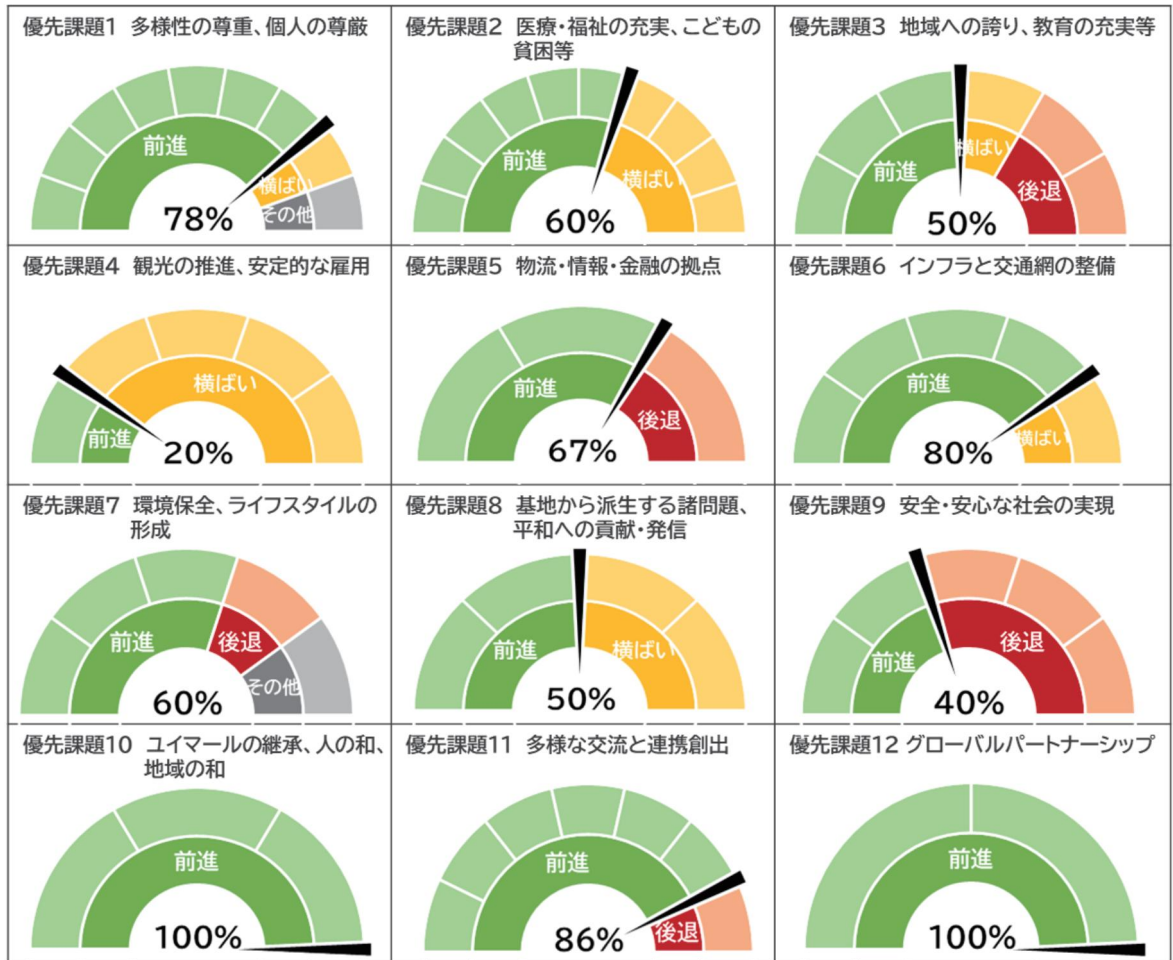
$$\text{変化率 (\%)} = (\text{現状値} - \text{基準値}) / (\text{基準値}) \times 100$$

評価	表示	「対基準値」の評価基準
前進		基準値と比較した現状値の変化率を小数第二位で四捨五入した結果が +5.0% 以上（前進の方向を+として評価）
横ばい		基準値と比較した現状値の変化率を小数第二位で四捨五入した結果が -5.0% より大きく 5.0% 未満
後退		基準値と比較した現状値の変化率を小数第二位で四捨五入した結果が -5.0% 以下（後退の方向を-として評価）

「SDGs 推進の目標」項目数	ローカル指標数	2025 年度進捗状況（変化率） ※対基準値				特記事項
		前進	横ばい	後退	その他	
39 項目	64 指標	41 指標 (64.1%)	13 指標 (20.3%)	8 指標 (12.5%)	2 指標 (3.1%)	その他指標とは、基準値取得以降データ未更新の指標等。

対基準値で見た場合の進捗状況としては、ローカル指標の64指標のうち、前進した指標が41指標（64.1%）、横ばいとなった指標が13指標（20.3%）、後退となった指標が8指標（12.5%）となりました。その他の指標は、基準値と比較するデータが公表されていない等、評価ができない指標となっています。

各優先課題の基準値に対する変化率で見る進捗状況の結果は以下のとおりです。



また、上記パネルの凡例は以下のとおりです。

